

夢の長距離走者

北星学園女子中学校 遊佐こまり 2年

「二回ジャンプ、そして体を脱力。」

もう少しで第二幕が始まる。衣装のチェックを終え、私は舞台の袖に立つ。深呼吸をしたら、ついに幕が上がった。

今から十五年後の二〇三九年、私は二十九歳。きっとミュージカル女優として活躍している。いや、必ず。小さい頃からこの夢を追い続け、十四歳の今も、ずっとミュージカルのことを考えている。私は本当にミュージカルが大好きなのだ。

私が初めてミュージカルを観たのは三歳で、四歳の頃にはもうミュージカル女優になると心に決めていた。そこから、ミュージカルに必要な歌やダンス、バレエを習い始めた。日々努力することはとても大変だが、自分の目指す道を信じている私は、一度も諦めたことがない。私の想いが強くなればなるほど、ミュージカルの世界に導かれていると感じる。

二〇三九年、AI化がさらに進んで便利な世の中になっている。経済、医療、建築など様々な分野で活用される。しかし、AIにより、仕事を奪われてしまう人が増えたり、AIに頼り切ることで、人間の持つ思考力、想像力が薄れ始めている。人々の適している職業をAIが判断し、目標を持ったり、夢を追う人が少なくなる。私のように、自分の好きなことに打ち込んだり、希望に胸をときめかせる機会も減っていくのではないだろうか。そんな世の中になるのは不安だ。私は、だからこそ芸術が必要だと考える。

私がミュージカルの沼にハマったのは、劇団四季の『キャッツ』からだ。これはたくさんの猫が登場する作品だ。役者の繊細な体のしなり、視線の動き、吐く息までが猫そのもので、私はすっかりその世界に引き込まれた。それは、努力を積み重ね、感情を声や動きに乗せることができる役者の熱意があるからだと思う。私はそれを見て、体中電気が走ったようにしびれ、全身が隅々まで熱くなった。幼かった私でも、魂の籠った演技に触れ、感動することで、醒めない夢と曲がらない意志を築くことができたのだ。AIにはこんなことは絶対できない。私は夢の長距離走者だ。

十五年後はまだ遠い未来のようだが、それまでに達成しなければならない目標がたくさんある。私の挑戦がいつか一人でも多くの人を動かし、希望を与えられたら、人間が本来持つ、喜びや愛情が消えずに、これからの未来にも広がっていくかもしれない。だから私は、今の道を真っすぐ進む。